

質疑応答 (要旨)

Q: カード系の2つの大型案件について、本格的にプロジェクトが立ち上がってくる時期や売上高のカーブに対する現状の見通しをお願いします。

A: 1つめの案件については要件定義工程にあり、これが終わったところで全体計画が決まると見ているため、今すぐにはお答えできない状況にあります。3月末までには全体像がもう少し見えてくるのではないかと思います。

もう1つの、規模のより大きな案件の方も、お客様の方で検討を続けているところですので、コメントするのが難しい状況にあります。あくまで我々の見込みとしてですが、今後数ヶ月は現在と同様の状況が続くのではないかと考えています。

Q: 特定の顧客との間において、収益に影響を与える可能性のある調整事項はないでしょうか。また、期末に向けてどう見ているかをお教え下さい。

A: お客様の個別の事情により、IT投資の金額全体を減らしたいという意向から協力要請が来ているという事は事実です。但し、お客様と調整している最中ですので、どうなるかは今コメントできる状況にありません。

Q: 第3四半期の売上総利益率は、不採算案件の減少や工事進行基準の影響を除いても改善していると思いますが、どういう要因によるもののでしょうか。

A: いわゆるセールスマックスの改善です。売上高の中身を見ると、開発の売上高が伸びて、販売の売上高が減っています。開発の方が販売に比べて利益率が良いものですから、結果として売上利益率も改善しているという状況です。

Q: 第3四半期の不採算案件の規模は概ね想定通りかと思えます。以前は結果的に想定と大きく異なったこともあったと思いますが、今はどのような情報把握や対応の仕組みができているのか、いつぐらいからそうした仕組みが本格的に稼働しているのかを教えてください。

A: 前年度は不採算案件を残念ながら43億円も出してしまい、会社全体として反省する中で、あらためて当期の初めから、受注段階あるいは提案段階での案件の絞込み、ないしはその精査を強めてまいりました。また、開発段階に入った後も生産品質を見る部門が現場を巡回して定期的に状況をヒヤリングするようにしています。従前に比べてよりいっそう能動的に情報を吸い上げる仕組みを作ったことで、対策を講じることも早くできるようになったことが、不採算案件の抑制にあたって奏功しているのではないかと考えています。

Q: その体制の中で、特に納品の大きい2月と3月をどう見えていますか。

A: 不採算案件が発生する可能性はゼロとは言えませんが、特に大型のものは今のところないと申し上げてよいと思います。

Q: 外部環境が良くなって、リスクの高い案件の受注が減るのではないかと思います。こういう考え方でよいでしょうか。

A: おっしゃるとおり、今は事業環境が良い状況でありますので、無理をして受注するものは減っているということは言えると思います。

Q: カードの大型案件はどれくらいの期間のものでしょうか。

A: あくまで我々の当初の見込みは、要件定義に入っている方の案件は5年間程度、もう1つの案件は7年間程度でしたが、先ほども申し上げたように、いずれも確定しているわけではありません。

Q: 公共系の大型案件は受注されたばかりなので、まだまだあまり収益に寄与していないかもしれませんが、状況を教えていただけますでしょうか。

A: 公共系の大型案件も工事進行基準を適用しており、下期合計での売上高を13億円で見ています。

Q: 期末受注残について、金融ITサービスが減っています。また、産業ITサービスは伸びていますが、125億円の大型案件を受注したことを考えれば、それを除くとやはり減っている計算になります。どのように考えたらいいかを教えてください。

A: 全体の状況から申し上げますと、売上高が伸びて消化が進んだため、期末受注残が減少していると

えます。しかしながら、第3四半期の受注高は良かったですし、第4四半期についても堅調と見ておりますので、あまり心配していないというのが最初のお答えになります。

金融 IT サービスの期末受注残が減っていますが、これは前年度にわりと大きな案件が多かった反動と見ており、さほど問題視していません。産業 IT サービスの期末受注残については、たしかに公共系大型案件を除いてみれば弱く見えるわけですが、冒頭申し上げたとおり、基本的に受注見通しから特段心配していないという状況です。

Q: 売上高が通期計画のとおりだと、第4四半期はかなり減収ということになります。受注残の減少が影響するということでしょうか。第4四半期の売上高はどのようなイメージでしょうか。

A: 第4四半期の売上高は、第3四半期における工事進行基準のプラスの影響分の多くがマイナスに効きますが、大きく減収になることはないと思っています。

なお、利益面についての考え方は通期の公表値を守っていきたいとご説明したとおりです。

Q: 第4四半期の受注高の見通しは前年同期並みという話でしたが、伸びは期待できないのでしょうか。金融 IT サービス、産業 IT サービスそれぞれの見込みについてもコメントをお願いします。

A: 現場からの見通しを集計し、その中でまだ確度の低いものを除いたベースでの前年同期並みと受け止めていただければと思います。内訳としては、どちらかという金融 IT サービスの方を少し強めて見えています。

以 上